

歴史を鑑(かがみ)とし 未来に向かおう！

港区探索

港区には戦争の歴史と切っても切れない深い縁があるという話のつぎ

「彰往察来」の碑

大阪港のすぐ脇にある天保山は江戸時代末期に人工的に造られ、現在は国内で二番目に低い山です。ここに「日中友好の碑 彰往察来」と刻まれた碑があります。「大阪中国人強制連行受難者追悼実行委員会」が二〇〇五年に建立しました。

中国人受難者追悼の運動は、有元幹明さんや冠木弁護士を中心に、南大阪地域の労働組合

が協力して、二〇年以上前に始まりました。長年の組合員の方はみな知っておられると思いますが、有元さんは大阪市港湾局出身で労働運動、平和運動に心血を注いでこられた方です。

碑の前では、毎年一〇月に欠かさず追悼の催しが行われています。「碑」を通して、港区と戦争の歴史を辿ってみたいと思います。

自分の職域で強制連行が

有元さんは以前、こう話されました。「戦争中、大阪港に中国人が強制連行され働いていた。多く

の方が亡くなった。この事実を自分も長い間知らなかった。自分が働いている職域でこんな事があったのかと初めて知ったとき、この歴史を明らかにし、未来にむけて教訓にしなければならなかった」と。

そして九四年からは体験した生存者を中国から招いたり、中国を訪れ、九八年からは毎年、生存者や遺族の方を招いて追悼集会を開催してきました。

「ゆかりの地」天保山

天保山は強制連行された中国人のたちが住まわされた場所の一つに近い

ところです。実際の場所のほとんどがいまや安治川の河底となってしまいました。多くの中国人が安治川を利用して荷物の積み卸しの仕事をさせられました。安治川河口・天保山公園はそうした「ゆかりの地」です。

歴史を忘れず教訓に

彰往察来とは「過去をあきらかにし、未来を察する」ということです。



組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

以下、〈追悼記念碑「彰往察来」の趣旨〉（追悼実行委員会）を要約・引用します。

朝鮮半島や台湾を植民地にした日本は、中国大陸、東南アジアへと侵略戦争を拡大していった。大阪はアジア最大の武器製造工場「陸軍造兵工廠」や軍事物資輸送拠点としての大阪港を有し、一大軍事都市として役割を担っていた。

日本は徴兵により不足した労働力を補うため朝鮮半島や中国大陸から多くの人々を強制連行し、大阪港にも一千人を越える中国人が連行された。

ある者は日本軍に突然村を囲まれ拉致され、ある者は戦闘での捕虜として連行され、日本で過酷な労働を強いられた。

大阪では造船所での雑役と安治川沿いで船の荷役をさせられた。不十分な食糧、劣悪な生活環境、監督による虐待、空襲などで一年足らずのうちに八六人ももの尊い命が失われた。この歴史を厳粛に受け止め、教訓として学び、平和の礎としなければならぬ。

異境の地で無念の死を遂げた中国人犠牲者を追悼すると共に、日中両国民衆の未来に向けた真の友好と平和を願い、二度

と侵略戦争に荷担することなく、平和港大阪、平和都市大阪を築く決意を込めて、ここに追悼碑を建立する。 以上

歴史を書き換えるな

今、歴史修正主義と呼ばれる歴史の書き換えが横行しています。日本軍「慰安婦」問題、南京大虐殺など国際的には常識である史実さえ平気で無かったことにし改ざんする行為です。

日本の侵略の歴史、加害の歴史を知り、向き合うこと自体に対して暴力や権力をもって攻撃が加えられています。

代表的存在が安倍シン

ゾウ首相です。小池都知事も、関東大震災のとき朝鮮人大虐殺の歴史を闇に葬ろうとしました。

しかし有った歴史を無かったことに、無かったことを有ったことにはできません。恥ずかしい歴史を黒く塗り潰すことで「日本人の誇り」が守られるのか？それこそ恥の上塗りではないのかと、本当に恥ずかしいです。

歴史の真実を知り、向き合い、反省し、克服していく道を被害者・被害国とともに探る営みこそ人間としての勇気と尊厳、平和をまもる道です。今、切実に問われていると痛感します。